

市政功勞表彰・市制施行 60 周年記念特別表彰 受賞おめでとうございます

11月1日（木）、文化会館大ホールで行われた市制施行 60 周年記念式典の中で、市表彰条例に基づく表彰および市制施行 60 周年記念特別表彰の受賞者に対する表彰式が行われました。

受賞された皆さんは、長年にわたり、各分野でご活躍された方、篤行に優れた方、市に寄附をされた方で、市長からはこれまでの功績に対する感謝の言葉とともに表彰状が手渡されました。



▲条例に基づく市政功勞表彰を代表受賞する元行政
区長の江部和榮さん
◀市制施行 60 周年記念特別
表彰を代表受賞する前市
長の遠藤忠さん



市政功勞表彰受賞者のみなさま

特別表彰受賞者のみなさま

【市政功勞表彰】（順不同・敬称略）

各分野で功勞顯著な方				篤行に優れた方			
村松 功一	教育	藤田 實	消防	大谷津ケイ子	小野崎 幸	齋藤 敦子	看護厚生
渡辺 忠	保健委員	江連 正好	統計	遠藤 順子	齋藤 敦子	高塩 十糸子	
渡邊 幸男		増田 武司		大谷 泰之	高塩 十糸子	野村 健二	
森 実樹		山下部陽一郎	櫻井 義子	野村 健二	樋口 惟邦	環境美化活動	
吉本 勉		福田 博光	山田 和子	樋口 惟邦	松本 勝代		
青木 憲男		江部 和榮	行政区長	松本 勝代	矢板市花の会	自主防犯活動	
福田 勇男		有坂 浩	農業振興推進員	中村 里子	片岡四区美化推進チーム		
加藤 慎一		石川 幸夫	文化財保護審議会委員	阿久津孝子	片岡四区防犯パトロール隊	地域コミュニティ活動 社会福祉施設等への慰問	
竹熊 健		市に対して寄附された方		和氣 トミ	奥 富 洋		
齋藤 修		矢板市育英会	大田原信用金庫	赤塚 恵美子	矢板葉笛教室	葉生音の会	
福田 勝		矢板市	だいしん文庫	高柳 澄江	葉生音の会		
			竹田 ツネ子				

【市制施行 60 周年記念特別表彰】（順不同・敬称略）

議会関係		消防関係		教育関係		保健衛生関係	
守田 浩樹	元議長	大貫 正博	消防団長	大森 敏	前教育長	大貫 充隆	国民健康保険運営協議会委員
中村 久信	前議長、現議員	福祉関係		福田 博光	前教育委員会委員長		
和田 安司	現議長	大久保甲子夫	保護司	軽部 敏昭	学校医	渡辺 忠	保健委員
宮本 妙子	現副議長	黒崎 英美子		後藤 哲郎		渡邊 幸男	
総務関係		湯澤 勤		池田 斉		森 実樹	
遠藤 忠	前市長	金子 光子		山田 聡	各種団体関係		
中村 修	元副市長	大桶 貞夫		谷仲 肇子	やいた応援かわら版編集委員会	広報活動	
飯野 正敏	前副市長	岡本 光正		阿久津透一	矢板市健康づくりみどりの会	健康増進活動	
村上 周司	統計調査	大塩 壽郎		八板 崇	山田ミヤコタナゴ保存会	文化財の保存継承	
高柳 澄江		神沼 惇子		荒井 敏明	学校薬剤師	篤行	
鈴木 登紀子		笹沼 卓夫		大貫 充隆	社会教育委員		
新野 明子	小口 マスエ	民生委員		岸 隆	少年指導員	寄附	
農業関係		中嶋 加代子	伊東 徹	山口 博久			
八木 澤寛夫	現農業委員会会長	大塩 壽郎	高橋 庸	ASA 齋藤新聞店			
内田 紀吉	前農業委員会会長	小野崎 郁夫	皆川 丈夫				
交通安全関係			矢板 秀臣				
若目 靖子	交通指導員						

秋の叙勲受章おめでとうございます

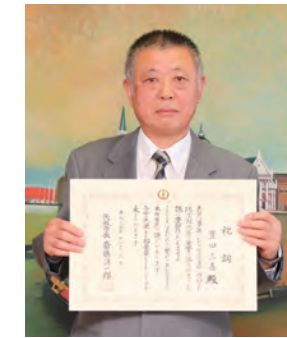
瑞宝双光章【看護業務】



坂主 リツさん
（上町）

1970年、看護師となり、国際医療福祉大学看護学科臨床教授や同大塩谷病院総看護部長などを歴任されました。

瑞宝双光章【警察功勞】



豊田 三善さん
（乙畑）

1966年、県警に入り、交通機動隊や署の交通課など、主に交通部門を歩まれました。県警本部運転免許管理課で退職されました。

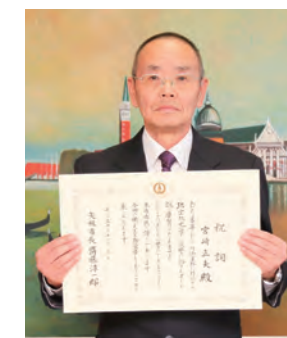
瑞宝双光章【警察功勞】



堀江 有三さん
（乙畑）

1966年、県警に入り、主に交通、地域部門を歩まれました。さくら署氏家駅前交番所長で退職されました。

瑞宝双光章【防衛功勞】



宮崎 正夫さん
（扇町二丁目）

1976年、陸上自衛隊に入り、栃木地方協力本部大田原地域事務所長で退職されました。

10/17 (水) 地域の安全を守る

県警本部長などから「功勞ボランティア団体」の表彰を受けた片岡四区行政区の高橋区長が、市長を表敬訪問しました。片岡四区は発足以来 18 年間にわたり防犯パトロールや高齢者などの在宅・安否確認を行い地域の安全を守る活動を住民自らが引き継ぎをしています。

高橋区長は「これを機にさらに地域一丸となり『安全・安心して住めるまちづくり』を心掛けるとともに、市内行政区全体の模範となるように、まい進していきたい」と話してくれました。



11/15 (木) 地域農業の発展

栃木県担い手育成総合支援協議会から優良集落営農の部優良賞の表彰を受けた「農事組合法人ファームやまだ」が、市長を表敬訪問しました。高齢化や後継者不足により農業の担い手が減少していきなかつた、農地の荒廃を防ぐために、「地域農業の発展」という高い理念のもと、組合員が協力しながら着実な経営に取り組んでいることが評価され、今回の受賞となりました。

代表理事の高野さんは「農業者相互の信頼を高め、組合員協力のもと着実に収益を上げていきたい」と話してくれました。



▲（右から）
・高野さん
・齋藤市長
・東泉さん

10/18 (木) 秋晴れのスポーツ大会

運動公園陸上競技場で秋晴れの下「第45回シルバースポーツ大会」が行われました。この大会は、スポーツを通して、高齢者の生きがいをづくりと健康増進をはかることを目的に毎年行われているもので、当日は374人の参加者がスプーンレースや紅白まり入れなどの競技を楽しみました。

参加した方は「高齢者でも無理なく楽しめる競技が多く、良い天気の中で気持ちの良い汗を流すことができました」と感想を話してくれました。



10/20 (土) 地域の輪を大切に

泉公民館で、「第23回泉地区ふれあい祭り」、21日(日)にかけて「第38回泉地区作品展」が開催されました。秋らしい天気にも恵まれたふれあい祭り当日は、多くの来場者でにぎわいをみせ、地元の方が焼きそばやつきたて餅などを販売するテントの前に長蛇の列ができたほか、泉小学校の児童がよさこいソーランを披露すると、子どもたちを囲むように多くの方で人垣ができました。

作品展では、泉保育所の園児、公民館講座生や地域の方の多種多様な作品が展示され、訪れた方を楽しませました。



10/26 (金) 大きく育てね

今年度末で閉校する西小学校で、「サツキ教室」が行われ、昨年以前に挿し芽をしたサツキの苗木をひと回り大きな鉢に植え替える作業を全児童で行いました。「矢板さつき愛好会」の見形さんほか3人の方から、根切りの仕方や鉢に入れる土の量などを教わりながら約50鉢を植え替えました。

児童たちは「丁寧に教えてもらったので上手に植え替えができた。西小の思い出として、自宅で大切に育ててきれいな花を咲かせたい」と感想を話してくれました。



10/27 (土) 日本遺産を巡る

日本遺産の構成文化財を巡る「歩き・み・ふれる歴史の道」が市内で開催されました。37人の参加者は、ウォーキングをしながら、5月に日本遺産の構成文化財に認定された矢板武記念館や山縣有朋記念館などを文化財愛護協会員や市学芸員の説明を聞き、明治貴族たちが遺した歴史を学びました。

文化財愛護協会の白石会長は「多くの方が矢板の歴史に興味を持ってくれてうれしい。これをきっかけに他市の日本遺産も巡ってもらえれば」と話していました。



10/28 (日) 楽しく歩いて健康に

「すこやか矢板ウォーキングマップ」の片岡地区コース約5kmを巡る健康ウォーキングが片岡公民館で行われ、大勢の参加者が秋晴れの下、さわやかな汗を流しました。主催の「矢板市健康づくりみどりの会」の方から歩き終えた参加者に特製の減塩みそ汁が振る舞われると、ホールの中はみそ汁の良い香りとにぎやかな話声があふれました。

初めて参加した方は「会話を楽しみながら歩くと長い距離も苦ではなかった。楽しみながら健康になれるので一石二鳥、今度友人を誘って歩きたい」と話してくれました。



10/29 (月) 自分たちのお米は最高!

西小学校児童が矢板高校を訪れ、両校が合同で田植えや稲刈りをして収穫した新米を使って行事食づくりを行いました。児童たちは、はじめに栄養食物科の生徒から、お米の炊き方や巻きずしの作り方について説明を受け、一緒にハロウィーンのお化けかぼちゃの絵柄になる巻きずし作りに挑戦しました。

児童たちからは「自分で収穫したお米の味は最高。高校生のお兄さん・お姉さんと一緒に、田植え・稲刈り・料理の活動ができて楽しかった」などの感想が聞かれました。



11/4 (日) 華麗な行列がまちを彩る

矢板一区行政区の公民館から上町の泉龍寺にかけて、稚児行列が行われました。これは、寺社仏閣でのお祝い事に合わせて行われ、参加した子どもの「無病息災・諸願成就」などを祈願する行事のことです。

この日は、晋山式と言われる、寺院の住職が正式に就任する式の挙行にあわせて15年ぶりに行われたもので、ひと目見ようと沿道に集まった方たちは、烏帽子や金の冠をかぶり金襴の衣装に身を包んだ50人を超える子どもたちの華麗な列に魅了されていました。



11/10 (土) 目指せ! 全国制覇

県グリーンスタジアムで、第97回全国高等学校サッカー選手権大会栃木大会の決勝が行われました。矢板中央は、昨年と同じ顔合わせで雪辱に燃える佐野日大に2-0で勝利し、県予選を通して無失点の鉄壁の守りを武器に、年末に行われる全国大会へ出場します。

高橋監督は「プリンスリーグでの善戦や新人戦、インターハイの県タイトル獲得など、自信を積み重ねてきた。全国優勝を果たし、新たな歴史をつくりたい」と強い意気込みを語ってくれました。



▲後半16分、コーナーキックからFWの大塚選手が合わせ先制点を挙げた。
※矢板中央高校は、前全国大会3位のため、シード校として、来年1月2日に、2回戦から出場します。